



「予測不可能な時代」をたくましく生きるとは？

校長 野邊 盛雅

そろそろ早春とは言え、まだまだ寒い日が続きます。風邪やその他の感染症対策についても十分にご留意ください。さて、3年生もいよいよ卒業間近となりました。将来の社会を担う頼もしい若者達です。今後の活躍を期待したいと思いますが、これからの社会はまさに変動期に向かうと予想され、別な見方をすれば「予測不可能な時代」に突入するとも言えます。今の中学生達は、まさにこの渦中を生きる世代となります。そのような社会を迎えるにあたり、どのような備えが必要になってくるのでしょうか？ある教育誌で熊本県の五木村立五木中学校の取り組みを紹介していましたが、この学校では、これからの激動の時代を生きる生徒たちに身に付けさせたい資質・能力を「主体性」「多様性」「表現力」の三つに位置づけ、これらの育成のために、地域の伝統農法である「焼畑」と「総合的な学習の時間」とをコラボレーションする方法を行っているようです。これは郷土教育の一環として、先人の知恵や自然と共存し、たくましく生きてきた努力を学ぶことにより、現代の課題にもなっている「持続可能な環境問題」としての視点を取り入れながら生徒達たちに具体的な学びを提供できる良い方法と思います。自然は、遙かに人間の力を凌駕しています。焼畑農法においては、天候の変化等も影響し、人間の思うようには行かないものです。まさに「予測不可能」な対応を迫られます。これらの困難に取り組むことで、子どもたちの「生きる力」を培う土台になることと思います。同じく財部も自然豊かな地域で、畜産、茶業、林業、畑作など自然をベースにした産業が豊富です。財部の生徒たちも自然を相手にした体験活動を積極的に実践し、ネット等のハイテクでは決して培うことの出来ない「生きる力」を身に付けてほしいものです。「生きる力は、大自然の中にあり！」と改めて考えさせられました。

1年生 職業講話

2月21日(金)に1年生を対象に職業講話が行われました。講師は、普段からお世話になっている学校活動支援員の井上さんでした。井上さんが活躍されていた自衛隊での体験談や一般的な中学卒業後の進路(高校やその先のことも…)について2時間講演で、学ぶことや生きることについて考える機会となりました。



吉井淳二展 見学

2月19日(水)に1・2年生で吉井淳二記念大賞展を見学しました。生徒の作品も展示される中、普段鑑賞する機会の少ない油絵等も鑑賞することができました。近くの距離から鑑賞する作品からは、迫力と繊細な表現を同時に感じることができ、あっという間の1時間でした。

吉井淳二展受賞者

優秀賞	3年	****
奨励賞	1年	板川 乃愛
秀作賞	1年	増田 朱実留
特選	3年	井上 涼那
特選	3年	小中野 愛未
特選	2年	河路 紗那
特選	2年	永吉 結衣
入選	3年	石田 七海
入選	3年	大川原 未空
入選	3年	奥 結奏
入選	3年	園田 あみ
入選	3年	富田 七虹
入選	3年	中津 結愛
入選	1年	落合 珂心



2年生 14歳立志

2月3日(月)の授業参観にて、2年生の立志の集いが開かれました。14歳という節目を迎え、それぞれがこれからの目標を自身が浄書した色紙を掲げて発表する機会でした。色紙には、それぞれの手形も添えられて、これからの決意に力強さを感じられました。保護者も参観する中で、これからの生き方について頼もしく語る2年生でした。これからの成長が楽しみです。応援よろしくお願ひします。



史跡めぐり

2月8日(土)に2年生を対象に財部の史跡巡りが実施されました。ガイドは野邊校長です。野邊校長の史跡巡りは今回で2回目です。中谷の堤城跡や母智丘にあるトーチカと呼ばれる太平洋戦争中に作られた戦跡も巡りました。

財部の郷土の歴史をいろいろな時代から考えるフィールドワークとなりました。十文字展望台から望む高千穂峰の姿に雄大な自然を感じることができました。



心の健康を考える



2月の生徒会保体部の取組で全校生徒から心の健康に関する標語を募集しました。学校賞を受賞した作品と保体部員がおすすめする心の健康に関する書籍の紹介もしています。全校生徒が考えた標語も冊子形式で閲覧することができます。

3月4月は新しい環境を迎える季節です。身体の健康とともに心の健康についても自分でメンテナンスできるようにしたいですね。